



男喰

い

淫乳航海士ナニ

恥辱の闘技場

奴隷女剣闘士レベツカ



ここはグランドラインのとある港町——
多くの船が入りし、港は様々な男たち——水夫、
人夫、商人、はては海賊の喧騒に溢れている
その光景を眺めるひとりの女がいた
商売女と見紛うばかりの肌を露出した出で立ちに
なにやら目に異様な光をともし周囲を覗っている



↑んふふ♡……いるいる……
この女に飢えたむくつけき男どものくっさい匂い……
たまんないわあ……じゆる……おっと、あんまり物欲しげ
だと足元見られちゃうから気をつけないと……
さて……どれか適当な男は……と……



そこのおにーさんたち ♡

いま港についたばかりでしょ？
私と遊んでみない？安くしとくわよ
ほくら(チラッ)サービスしちゃうわよ？



ふふ……どう?
こんなのそこの女じゃしてくれないでしょ?
私のパイズリ評判いいんだから
そつちのおにーさんもちよっと待っててね
いま済ませちゃうから……



ほつりゃ…ほれへろつら!

じゅる…じゅぽ!じゅぽ!

わらひのへられいひやにゃいおとほ
はいにゃひのほ!!

ぶじゅ!じゅるるっ!



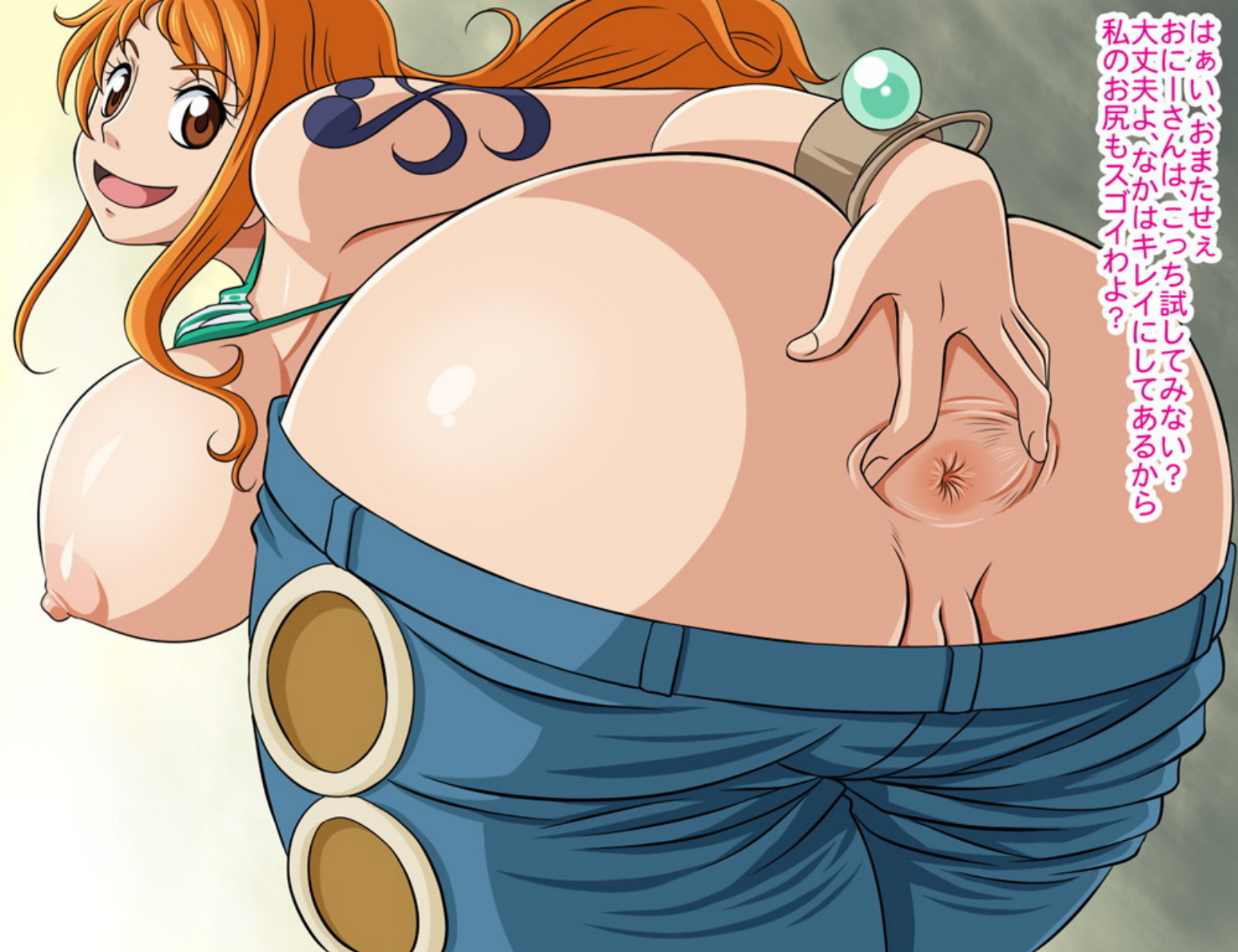
ぶはー!

……この溜めに溜めた男汁……
やっぱいいわあ……

え?……あなんでもないわよ
すぐキレイにするから……

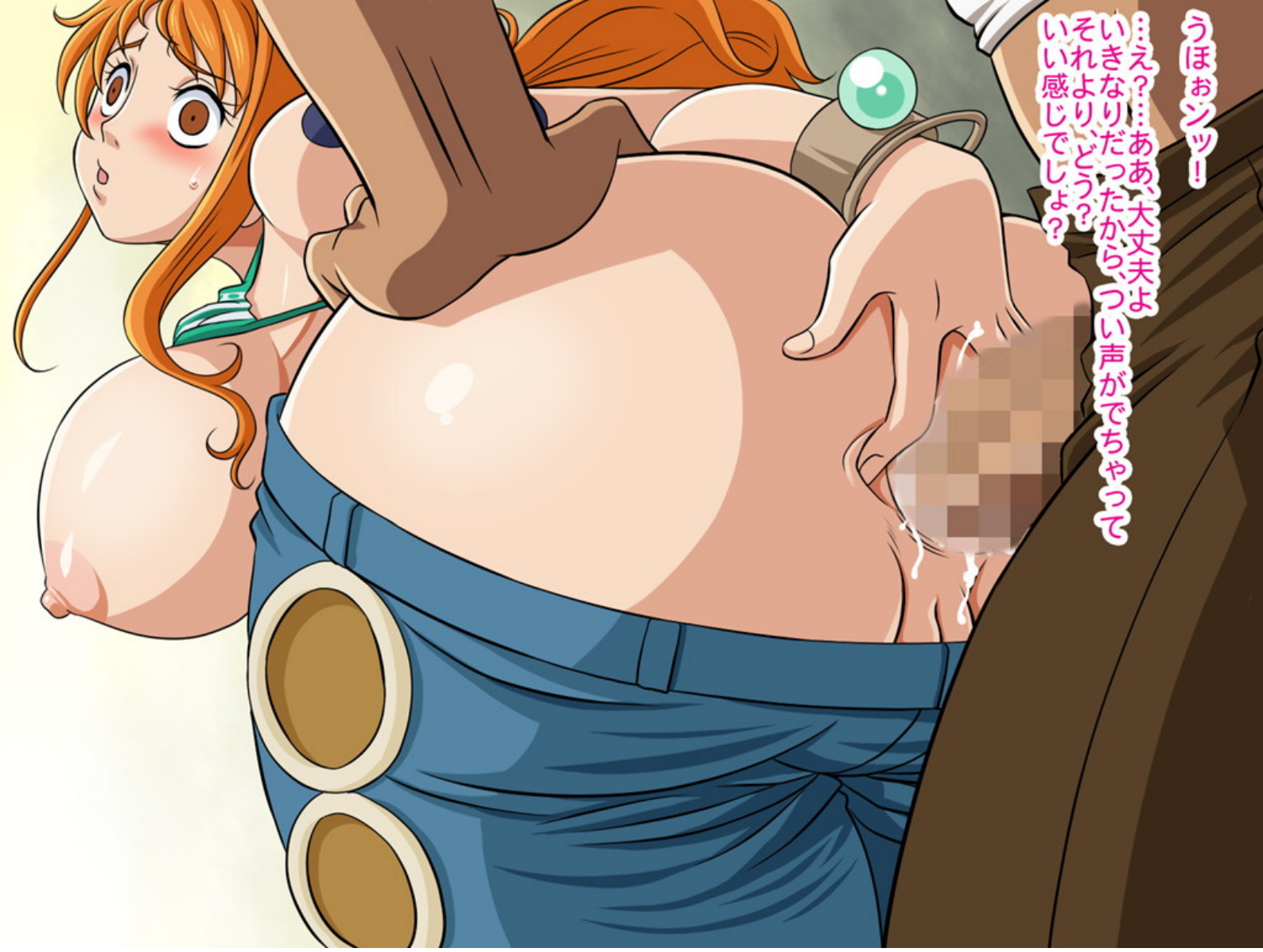
ひよつとまっへへ……ちゅばちゅば

はあい、おまたせえ
おに川さんは、こつち試してみない？
大丈夫よ、なかはキレイにしてあるから
私のお尻もスゴイわよ？



うほおんツッ!

…え?…ああ、大丈夫よ
いきなりだったから、つい声がちやつて
それよりどう?
いい感じでしょ?





ほうら...どう?

こうやって私が腰をまわして
こねこねするの気持ちいいでしょ?

ふふ...
これでイカない男はいないわよお
ほらもうお尻のなかでびくびく
するのがわかるわ!



え？なに？
今度は自分で動いてみたいって？
！そりゃ、かまわないけど！
ひいッ！
いきなり激しッ！
も、もつとゆつくり！
はうッ！ああんッ！

す、スゴいわ！
おにーさんスゴい！

アアツ！あーツ！

こ、この…男に好き勝手に
食られる感じ…
ひびさしぶりだわ…
や、ヤバ…アタシいきそう…

く…きひいッ！

ひいイッー！



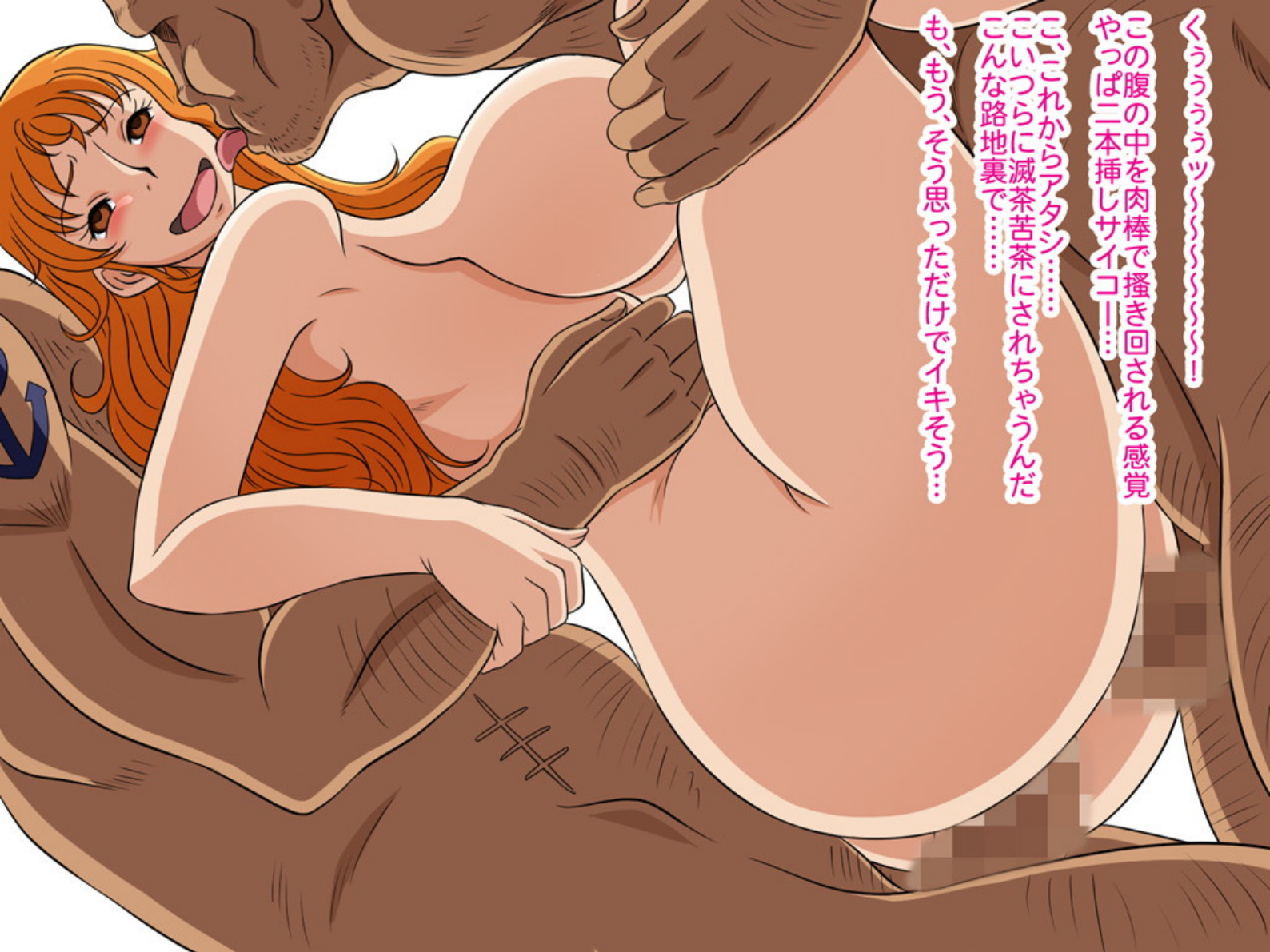


はあ……はあ……

も、もう我慢できない!!
そっちのアンタもさっさとアタシに
突っ込みなさいよ!

アンタ達も二発出したくらいじゃ
萎えるわけないでしょ?

ふたりまとめて相手してあげるわ!

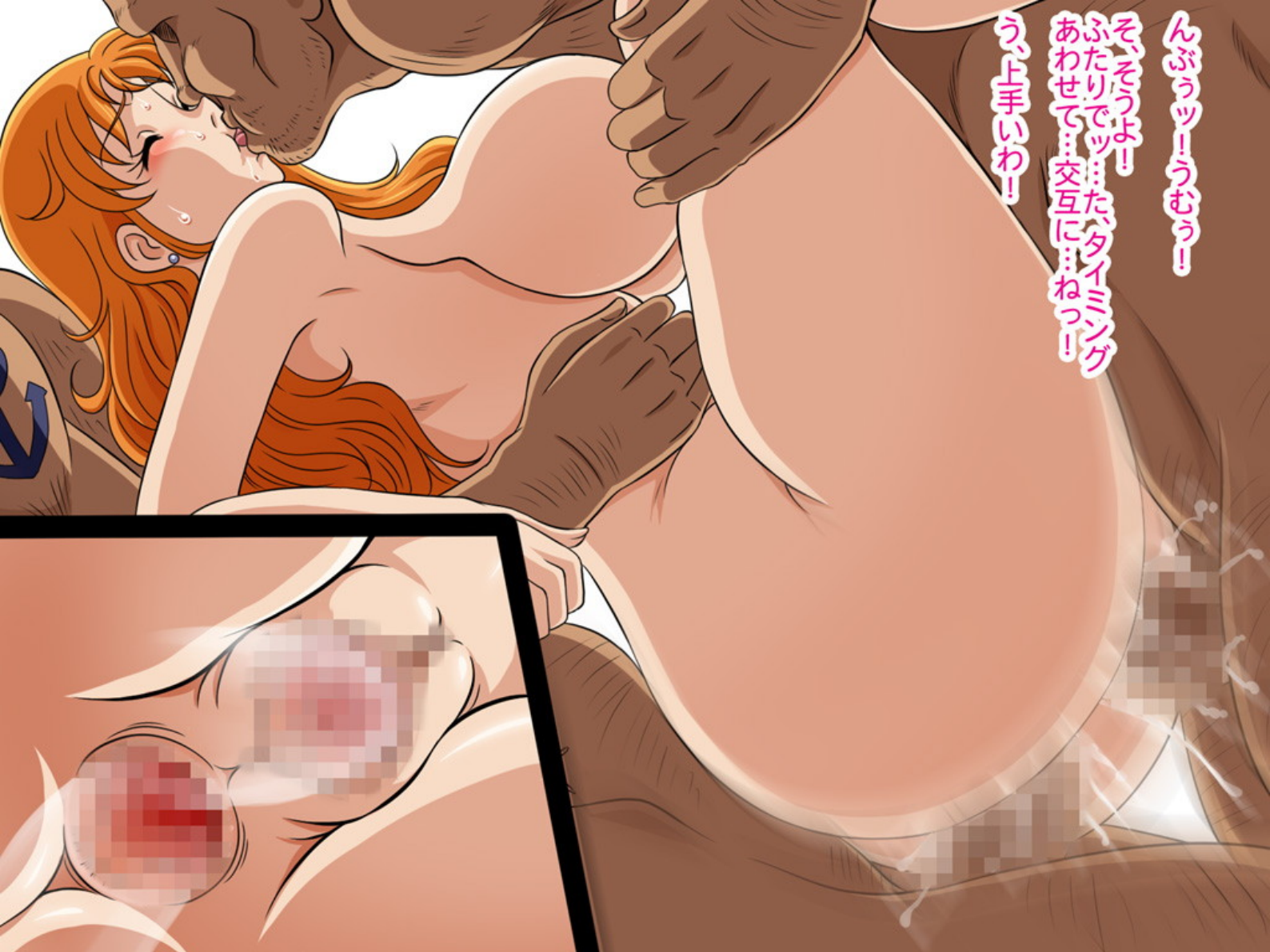


くうううッ~~~~~!

この腹の中を肉棒で掻き回される感覚
やっぱ二本挿しサイコ……

こ、これからアタシ……
こいつらに滅茶苦茶にされちゃうんだ
こんな路地裏で……

も、もう、そう思っただけでイキそう……



んぶうッ！うむう！
そ、そうよ！
ふたりでッ！た、タイミング
あわせて！交互に！ねっ！
う、上手いわ！





ハッ！ハッ！あはあッ！
も、もっとほじって！
もっと掻き回して！
もっとアタシを滅茶苦茶にしてよ！
あ、アタシ…もう…！



……あー……

イッたイッた……
ひさしぶりにチンポ堪能したわあ

あはっ全身どろっどろじゃないの
次の男引っ掛ける前にお風呂探さないと

……あ、しまった……
金とるの忘れてた……

ねえ！みんなヤラない？

またかよ！ヤラねえ！

：おまえ、この前俺の刀で
オナリやがったろう？
次やったら叩き斬るぞ

ナミ！俺が寝てる間に
鼻にハメるのヤメロって！！
マン汁臭くてかなわねえ！

人間の女とやる趣味はないゾ

相手してあげてもいいんですけど
私チンポついてませんので
骨ですから！

今度全自動アクメマシン作って
やるからちよつと黙ってる

あなた、港で何人男を食ったの？
大分噂になってたわよ

な、ナミさん！お相手なら俺が！

あ、サンジくんはいいわ
早漏は趣味じゃないの

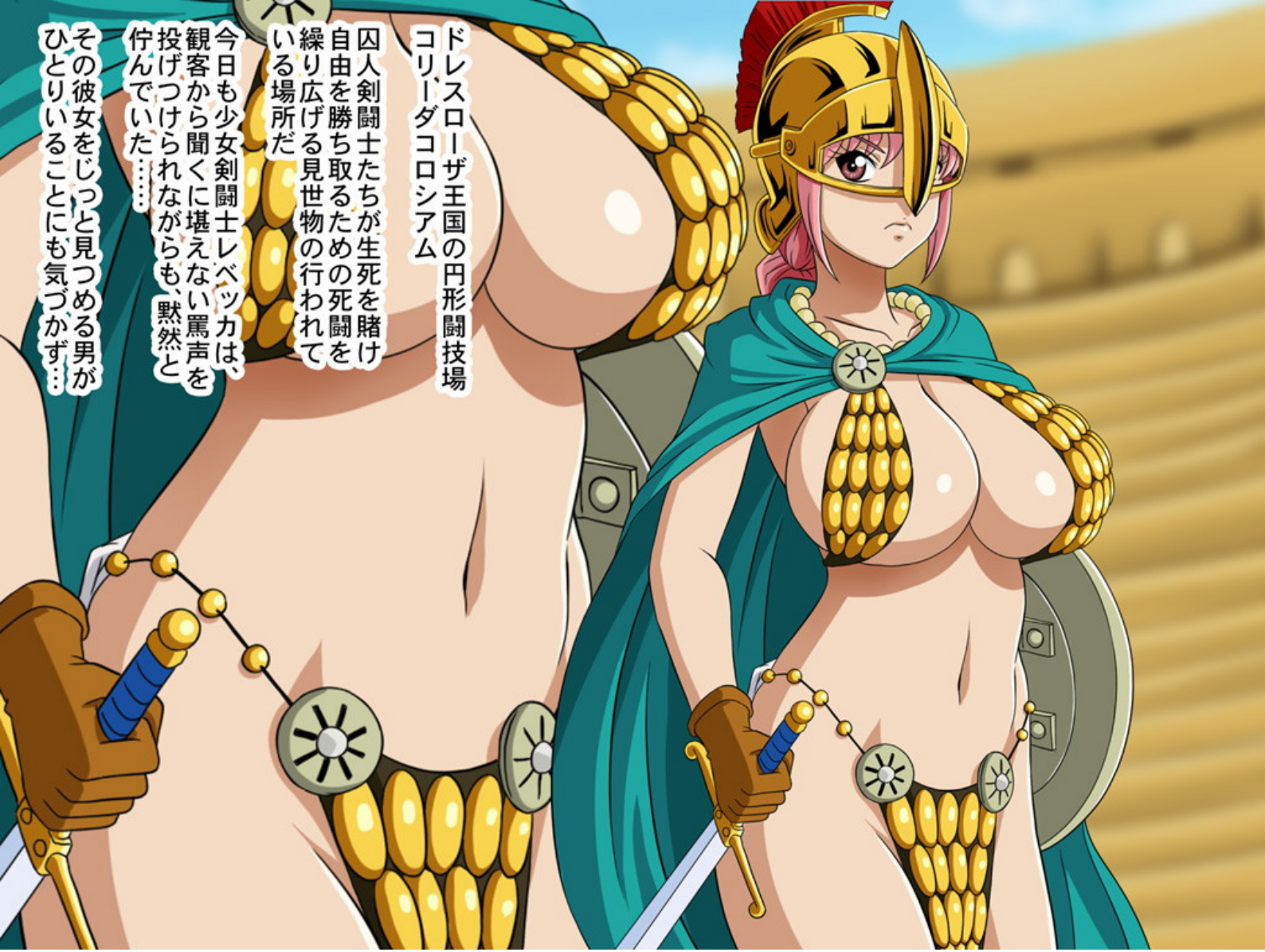
END

ドレスローザ王国の円形闘技場
コリドコロシム

囚人剣闘士たちが生死を賭け
自由を勝ち取るための死闘を
繰り広げる見世物の行われて
いる場所だ

今日も少女剣闘士レベツカは、
観客から聞くに堪えない罵声を
投げつけられながらも、黙然と
佇んでいた……

その彼女をじつと見つめる男が
ひとりいることにも気づかず……





それは些細なミスだった
いつものように闘技場の縁に陣取り
突進してくる相手を場外に落とすと
いう戦術をとるべく、移動していた
レベッカを誰かの攻撃がかすめた
それ自体は、なんのダメージにもなら
なかつたが、胸当てがずれレベッカの
豊かな胸がまろびてた
人目に晒された自分の乳首に思わず
動揺した彼女が足を止めたのは年頃
の少女なら致し方無いことであらう
だが：



思わず足を止め胸元を直そうと
していたレベッカの後方から
拳が唸りを上げ彼女を襲った
普段であれば避けられたであろ
う一撃を彼女は避けきれなかった

「がはッ! あがッ!」
かろうじて致命傷を躲したのは
レベルカの卓越した技術だった
が、脇腹を抉られた痛みによつた
うち回り咳き込む

そんな彼女の足を誰かが掴んだ



ひとりの屈強な剣闘士がレベッカの足を掴みあげ、逆さに吊り上げた。足を大きく広げられたレベッカが苦痛と羞恥に呻き、逃れようと身をよじるが……





レベツカの股間から異音が響いた
「逃げ回られると面倒だからな……
なあにちよつと関節と筋を捻った
だけだ……しばらく歩けんがな」
男が冷酷に笑う

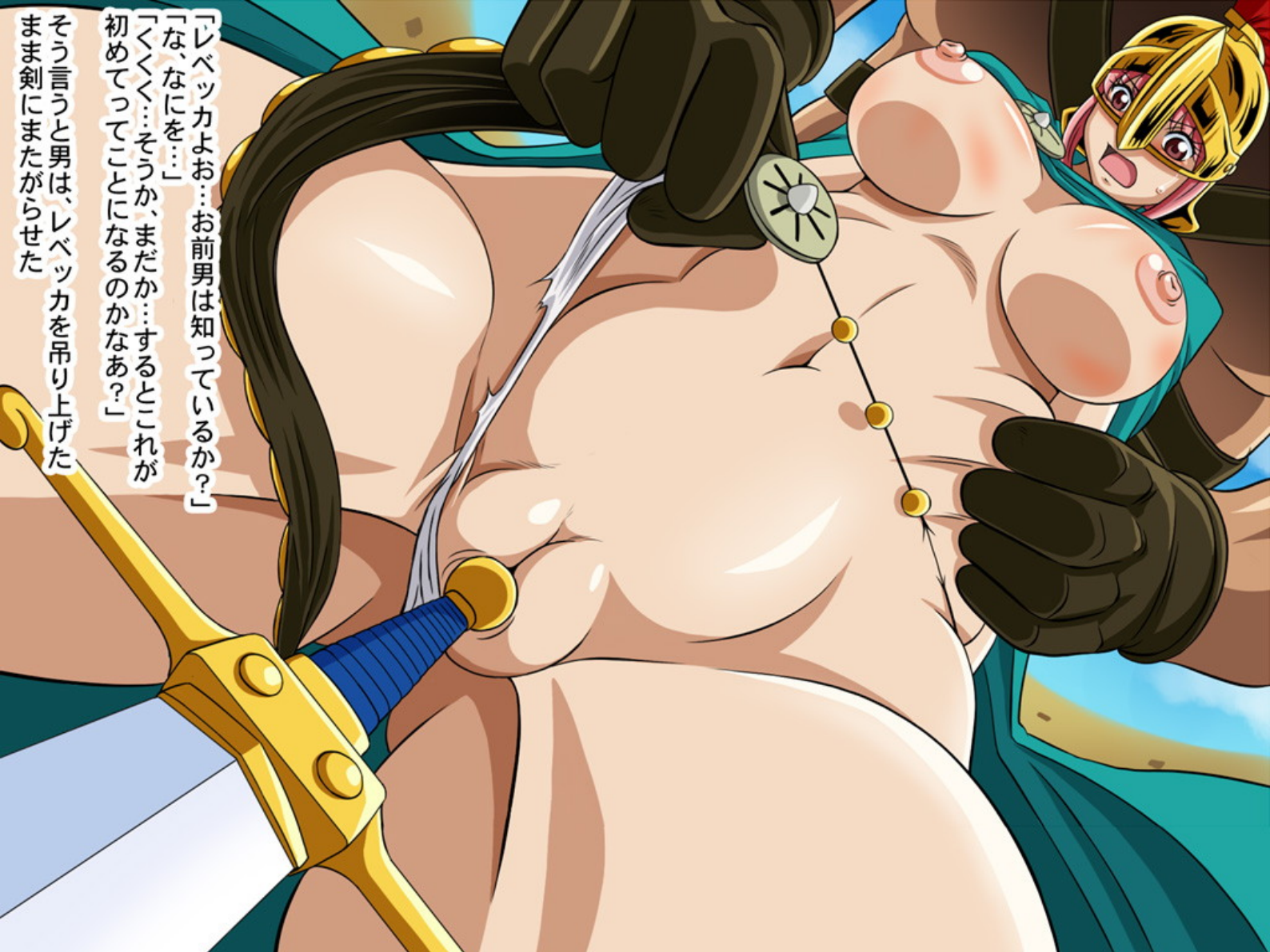
だが激痛に呻くレベツカの耳には
届いていなかった……



「や、やめ…ち、ちぎれるう…!!」
男はレベツカの足から手を放したが
今度は彼女の乳房を掴んで吊り上げた
体重が胸の付け根にかかり、更なる
痛みで顔を歪めるレベツカ



闘技場の床に突き立ったレベッカの愛剣
投げ出された時に偶然そうなったのだろう
それを見た男は、何かを思いつき口の端し
を歪める



「レベッカやお：お前男は知っているか？」

「な、なにを…」

「くくく…そうか、まだか…するとこれが初めてってことになるのかなあ？」

「そう言うとなんは、レベッカを吊り上げたまま剣にまたがらせた」



「やっやめてえッ!」
なにをされるか悟ったレベッカの哀願を
無視し、男をレベッカの股間に剣の握り
を押し込んだ

「うぎいっしょー」

「初めてがこんなものだけじゃ
気の毒だなレベッカよ」

男は、そう言うのとマントを
たくしあげるとレベッカの
尻肉を掴んだ

「？」



「ひぎイツッ！」

前戯すらない肛虐にまたしても
悲鳴をあげるレベツカ
足には殆ど力が入らないが、肉棒
に押し上げられ腰が浮く



「おっと、いけねえ」
男はレベツカを押さえつけると
強引に腰を落とさせる

肛門と膣を深々と犯され、ただ
泣き叫ぶじかできないレベツカ

「ぐひいイイツ！」

「お、こりやいな」
激痛に痙攣するレベツカの尻肉
の感触を男は楽しんで
レベツカの体を掴んで無理矢理に
ピストン運動をさせ始める





いつ終わるともしれない陵辱もついに絶頂がきた
突如レベツカの下腹部を熱い衝撃が襲い、腹部が
痙攣とともに膨張していったのだ…

ようやくのことでレベッカは解放され、床に転がされる。すでに満身創痍、息も絶え絶えな上に、その腹部は妊婦のように膨れ上がっていた……

「俺の射精量は半端なくてなこれでも何人も女を壊したのが囚人剣闘士になった理由よひさじぶりに抱けた女がお前のようなタフで嬉しいぜ」





ドズ
グアアッ!

「そのお前のタフさに敬意を表し
コイツもくれてやるぜ!」
そう叫ぶと男はレベッカの腹を
踏みつける

「ぶぎやあアッ!」

まるで豚のような悲鳴とともに
レベッカは口と肛門から
まるで噴水のように精液を
噴き上げ悶絶した

ガッ

レベッカの朦朧とした意識に
観客たちの歓声が聞こえてくる…
「犯せ!」「畜生!俺にもやらせろ!」
「ざまーみる!」「剣闘士全員で輪姦せ!」

「聞こえるかレベッカ…どうやら客どもは
お前の更なる痴態がお望みらしいぜ…
もうお前は剣闘士じゃねえ…ただの肉奴隷よ」
男は兜、マントとレベッカの残った剣闘士の
衣装を剥ぎ取り、その裸体を衆目に晒す

レベッカの目にはもう絶望しか浮かんでいなかった…

END